



昆虫を探しに行こう!

もうすぐ夏休み! 皆さんは何をして過ごしますか?

せっかくの夏休み、対馬の昆虫に目を向けてみるのはいかがでしょうか。対馬博物館の自然史担当学芸員が楽しくて奥深い昆虫の世界へご案内します。



①

ウラジロ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

羽の裏は白色で、羽の表が青緑色にきれいに輝くシジミチョウの仲間です。



②

ツシマ ○ ○ ○ ○ クワガタ

対馬にしかない日本で最も大きくなるクワガタムシです。



③

ツシマ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ハムシ

トゲ状に広がったヘリが特徴のハムシです。

クイズ ①～⑥の昆虫の名前わかるかな?

対馬には、ここにしかない昆虫や、珍しい昆虫がたくさんいます。

昆虫たちの名前で空欄に入る文字、皆さん分かりますか?(答えは7ページに!)



④

チョウセン ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

日本では対馬にしかない秋に鳴くセミです。



⑤

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ コガネ

鹿のフンを食べて育つコガネムシの仲間です。



⑥

ツシマ ○ ○ ○ ○ ○ シジミ

ホダ場やスギ林に住む、対馬固有の小さなシジミチョウです。

昆虫好き憧れの島「対馬」

島外の人に「対馬の魅力って何ですか？」と聞かれたら、皆さんは何と答えますか？

「豊かな自然！」と答える方も多いのではないのでしょうか？大陸と日本列島の間に位置する対馬には、対馬にしかない生き物がたくさんいます。

その中でも昆虫は、私たちの生活に身近なものから、対馬にしかないものまで、島の中にたくさん生息していて、夏はその昆虫たちの活動がよくみられる季節です。そんな昆虫たちの生きた姿を観ようと、この季節には、島外からも多くの昆虫好きが対馬にやってきます。

生息している生物を調べることで、日本列島の生物相の成り立ちを知ることができます。その点において対馬はとても重要な場所です。対馬の昆虫と大陸や日本列島の昆虫を比較することで、日本の生き物がいつ、どのように大陸から渡ってきたのかを知る手がかりになります。また、昆虫を調べることは、その昆虫の食べ物や存在や昔の対馬や地球の気候を知る手掛かりになることもあります。私たち人間と大きさを比べると、小さな昆虫ですが、昆虫から教えられることは、とてもたくさんあるのです。



たかし
谷尾 崇 学芸員

中学生の頃、生物部で蝶の標本を作ったことから昆虫が好きになり研究者に。

昆虫を追いかけて神奈川から対馬へ移住。自宅には、標本用に採集した昆虫を保管するための冷凍庫があります！



昆虫を探しに行こう！

準備編

では、早速、昆虫を探しに外に出てみましょう！

でも、ちゃんと準備をしておかないと、昆虫に会うことができないばかりか思わぬケガにつながるので注意が必要です。

昆虫を捕る準備の前に、自分を守る準備を！

昆虫がいる場所は、毒をもつ生き物や、触れるとかぶれる植物などに注意が必要です。長袖長ズボンなどで、できるだけ肌を出さないような工夫をしましょう。虫よけスプレーなどを持っていくことをお勧めします。また、暑くなるので、水分をしっかり準備することも大切です。出かけるときは、睡眠や食事をしっかりとって、体調が心配なとき、また、天気が悪くなりそうなときは、無理をせず出かけるのをやめることも大切です。



他にも…



身近なものをうまく使って！

昆虫を捕った時に使う容器など、専門的なものもありますが、身近なものでも十分使うことができます。例えば、100円ショップなどにある食品容器や薬ケースなどは、密閉できる上に小分けにできるなど、昆虫の種類や捕った場所で分けるのに、とても役に立ちます。皆さんも工夫して準備してみましょう！

昆虫を探しに行こう!

採集編



昼? 夜? いつ出かけたほうが良い?

昆虫は、種類によって活動する時間が異なるので、探したい昆虫によっていつ出かけるかが変わりますが、昼間のほうが暗いときよりも安全に探すことができます。昼間に出かけても夜動く昆虫が隠れていることがあるので、たくさんの昆虫に出会うことが可能です。

昆虫が好きそうな場所を探してみよう

夜に活動する昆虫は、昼間は、木の穴の中、石の裏、落ち葉の下などに隠れています。昆虫がいそうな場所を探して、のぞき込んだり、石をずらしたりしてみましょう。



市内の公園には、昆虫が集まりやすい木が植えてある場所がいくつもあるので、探してみよう!

入ってはダメなところや捕ってはいけないものも...

勝手に人の山に入って、昆虫を探してはいけません。また、草や花、昆虫や石などそこにあるものを持ち帰ってはいけないところもあるので、行く前にしっかりと調べるようにしましょう!



木の穴をライトで照らして探してみる



樹液が出ている場所



側溝の落ち葉の下



ススキの葉を、巣とエサにする
キマダラセセリ



キイロトラカミキリ



運よく捕まえることができれば、持ってきた容器に素早く入れます。この時1匹ずつ入れることができる容器があれば、昆虫同士が傷つけあうことを避けたり、どこで捕獲したかすぐに分かたりするのでとても便利です。

山まで行かなくても!



町の中でも昆虫を見つけることができます。おススメは、森の近くの自動販売機。夜の間に集まった昆虫たちが、機械の隙間や近くの土の中に隠れていることもあるので、じっくりと観察すると、クワガタやカブトムシなど、思わぬ大物に出会うこともあるかも!



昆虫を探しに 行こう! 記録編

標本は、未来へのメッセージ

捕まえた昆虫は、家で飼って成長の記録をつけたり、友だちと見せ合いしたりすることが多いと思いますが、夏休みの自由研究を兼ねて、標本にしてはどうでしょうか？標本を作り、昆虫が「いつ、どこで、どのくらい」生息していたかを記録することはとても重要で、対馬の自然がどのようになっていたかを未来に伝えるメッセージになります。

手軽に画像で記録



最近は、カメラだけでなく手軽に撮影できるスマホなどがあるので、データラベルを作った後、採集した昆虫と一緒に写真を撮って、画像として残しておくこともできます。同じ画面の中に、いつ、どこで見つけたかなどの情報があれば、未来への立派なメッセージになります。



標本箱の中には、昆虫だけでなくその時生息していた範囲など、情報が詰まっている

本格的に標本にする

①データラベルを作る



- ①国名、都道府県名
- ②地名
- ③場所の名称（標高）
- ④緯度・経度
- ⑤採集日・採集者

※最低限、日付と採った場所が記録してあればOK!

②昆虫の形を整えて しっかり乾燥する



整える前に乾燥した場合、水につけるなどして柔らかくしてから形を整える。最初に冷凍しておくと、柔らかい状態で作業がしやすくなる!



相浦正信コレクション 好評展示中!!

佐賀県出身の相浦正信さん（昭和16年～令和3年）は、仕事で赴任して来た対馬の自然に魅了され、そのまま対馬に移住し、40年以上も昆虫などの調査研究を行いました。対馬では見つかっていなかった生物をいくつも発見したり、自宅を開放して昆虫館を作ったりしました。現在、相浦さんが残した数百箱の昆虫標本は、対馬博物館で保管され、相浦正信コレクションとして展示を行っています。



いよいよ始まる夏休み。皆さんの周りの豊かな自然には、まだまだ知らないことがたくさん隠れています。この夏休みに昆虫だけでなく動物や植物など対馬の自然に触れてみてはどうでしょうか。

4ページの正解は

- ①ウラジロミドリシジミ ②ツシマヒラタクワガタ ③ツシマヘリビロトゲハムシ
④チョウセンケナガニイニイ ⑤ヒメダイコクコガネ ⑥ツシマウラボシシジミ